

予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く19人の議員で構成、委員長は菊池巳喜男議員、副委員長萩野幸弘議員）は、条例3件、予算8件について付託を受けて2日間の審議を行いました。今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全11議案が原案のとおり可決・承認されました。



キャトルセンターの事業内容は

問 最近の燃料高騰と酪農家の経営を圧迫している。その解決策として寺沢牧場への早期放牧を実現すべきでは。

答 放牧能の除染作業中のため現在は放牧不可能であるが、除染後の牧草の検査結果と生育状況をみながら、畜産振興公社と連携し、来年度中には一部のエリアでも放牧できるようにしたい。

どうする 汚染ほだ木

問 しいたけ生産において、畜産部門の草地除染同様、全てにおいて対応すべきと主張してきたが、検体対応のみで推移している。ほだ場全体の除染をしない限り、最終しないと思うが。

答 100ベクレルを超え、全て処分したいと考えて示された基準に基づき対応している。農林振興センターと協議しながら、早急に対応すべく協議している。

問 ほだ木を残したまままでの除染作業は進まないと思う。現状の生産体制を維持することが困難となっている。支援策を強化すべきと考えるが。

答 平成25年度、47検体中5検体が100ベクレルを超える状況にあるが、確実に改善傾向にあり県と連携し、流通再開に向けて対応を強化したい。

また2万本の処理と合わせ除染対策を更に強化したい。

草地除染の進捗状況と農地集積のあり方は

問 除染の進捗状況について、多雨によって各地域で作業班が苦勞している実情がある。計画面積に及ばない可能性があり、作業工程とあわせ進捗管理を徹底すべきと考えるが。

答 基本的には県の管理となるが、市としても係わっていきたい。

問 除染作業により草の収量が増加している。一方で飼養頭数の減少に歯止めがかからない状況にある。こうした現状について、どう認識しているのか。

答 強く認識している。耕作放棄地の草地化問題も出てくると思われる。

問 有畜農家との契約により補助金の交付を受けている無家畜宮守支店跡地活用等も予定している。

問 ふれあい情報プラザの展示及び改修の設計業務委託料の内容は。

答 展示は釜石線のSL運行に伴い、銀河鉄道など宮沢賢治の童話の世界へと誘う内容で計画しており、施設改修もそれに沿ったものにした。

問 松くい虫等、周辺の山林保全対策も必要では。

答 恋人の聖地からめがね橋を見た景観も大事であり、今後対応する。

問 SL運行の時期は予定通りか。

答 当初は今年度冬以降の運行予定だったが、現在は12月復元完了、来年3月試乗会後の本格運行に予定がずれ込んでいます。

岩根橋周辺の環境整備と川の安全対策等は

問 SLプロジェクトに係る、岩根橋周辺環境整備工事費の内

農家があるが、借り手は今後草余り状況になり、小規模の効率の悪い草地在りになる。そうしたことから農地を一時的に集約管理する新たな組織の必要性について、農地を中間管理する機能が求められる。例えば市単独の農業公社の必要性を含めての認識は。

答 農地利用集積の観点から、国では農地中間管理機構について検討されている。分散した農地の受け皿が無く、集積が進まないことから市町村へ業務委託する方向で制定されると聞いている。

問 人に対して農地の集約がされ、効率の悪い集約から地域に集約する事を視野に入れて取り組むべきだ。農業の多くの課題解決をする役割を担う農業委員会は、唯一「建議」ができる機関であるが、どのように捉え今後取り組むか。

答 団地化の重要性が増している認識が滑化団体が組織され、

岩根橋と並行する鉄橋・達曾部川橋梁の河川敷にある立木等を伐採して景観を整備し、SLを見に来る観光客等が良い環境を提供するための費用計上である。

問 現地は達曾部川と猿ヶ石川の合流地点であり、大雨による増水や田瀬ダムからの放流の危険性や安全性は考慮されているか。

答 岩根橋と並行する鉄橋・達曾部川橋梁の河川敷にある立木等を伐採して景観を整備し、SLを見に来る観光客等が良い環境を提供するための費用計上である。

問 現地は達曾部川と猿ヶ石川の合流地点であり、大雨による増水や田瀬ダムからの放流の危険性や安全性は考慮されているか。

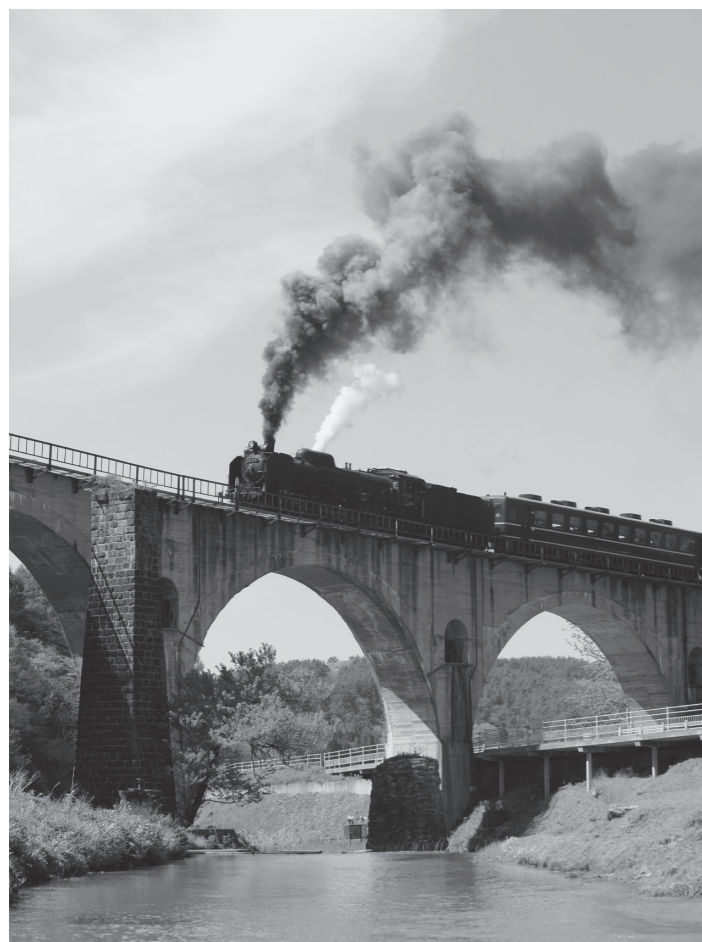
答 岩根橋と並行する鉄橋・達曾部川橋梁の河川敷にある立木等を伐採して景観を整備し、SLを見に来る観光客等が良い環境を提供するための費用計上である。

白紙委任をいただき実施している。国において中間管理機構が組織され、農業公社に業務委託すると認識している。今後加速化され団地化が進むものと考えられ支援を強化したい。

問 産直施設の「さんさろ」が7月末で

閉店したがその理由は何か。また、後継事業者を募集中のようであるが現状はどのような状況か。

答 売り上げが思うように伸びずこれ以上の事業継続は困難という判断から閉店された。現在、市外の農業関係の食品を扱う企業から申し込みがあり開店に向け協議中である。



ダムからの放流増水の認識はなかつたが、情報を収集しながら表示看板等で啓発し危険のないように対策を講じたい。

問 SLプロジェクトは花巻から釜石までの沿線自治体が一体的に取り組むことにより一層の効果が期待できるのでは。

答 「釜石線沿線活性化委員会」もある。SLへの乗車以外にも道路や道の駅を利用し

た観光等も含め、各市町と連携しながら進めていきたい。

※建議とは：意見を申し立てること。

※白紙委任とは：人に物事を依頼するとき、条件をつけず必ずてを任せること。